

世界の映画作家たちは現代社会を覆い尽くす 「格差と貧困」をどのように描いたのか？

インターナショナル新書 84

「最前線の映画」を読む Vol.3

それでも映画は「格差」を描く



町山智浩 (映画評論家・ジャーナリスト)

2021年10月7日(木)発売

定価 990 円 (税込)

発行：集英社インターナショナル 発売：集英社

新書版／272 ページ

ISBN: 978-4-7976-8084-3

お待ちかね、「最前線の映画」シリーズ

第3弾！ 『天気の子』はなぜ雨を止

めなかったのか？ 『ジョーカー』は

なぜ、チャーリー・チャップリンを観

るのか？ 『ノマドランド』の街はな

ぜ消えたのか？ どうして『万引き家

族』では「スイミー」が語られるのか？

著者はアメリカ在住です
が、Zoom、Skype などで
のリモート取材・出演、積
極的に受け入れます！ お
気軽にお問い合わせくだ
さい！

【著者略歴】

映画評論家。ジャーナリスト。1962年、東京都生まれ。早稲田大学法学部卒業。「宝島」「別冊宝島」などの編集を経て、95年に雑誌「映画秘宝」を創刊。その後、アメリカに移住。現在はカリフォルニア州バークレーに在住。TBSラジオ「たまむすび」、BS朝日「町山智浩のアメリカの今を知る TV In Association With CNN」レギュラー。著書に『「最前線の映画」を読む』『「最前線の映画」を読む Vol.2 映画には「動機」がある』（インターナショナル新書）などがある。

コロナ禍の現代だからこそ、 「必見の映画」13作を紹介！

【本書の目次から】

- #1 『パラサイト 半地下の家族』——降りしきるのは雨だけ
- #2 『ジョーカー』——最も恐ろしきハッピーエンド
- #3 『ノマドランド』——映画が与えた「永遠の命」とは
- #4 『アス』——私たちこそモンスターだ
- #5 『ザ・スクエア 思いやりの聖域』——「善きサマリア人」は、どこだ？
- #6 『バーニング 劇場版』——格差が生んだ「大いなる飢え」
- #7 『ザ・ホワイトタイガー』——インドのラスコーリニコフ
- #8 『ロゼッタ』——格差と貧困を描く「ダルデンヌ・スタイル」とは
- #9 『キャシー・カム・ホーム』——世論を動かした、ケン・ローチの「原点」
- #10 『わたしは、ダニエル・ブレイク』——貧しさは罪なのか？
- #11 『家族を想うとき』——「個人事業主」という罫
- #12 『万引き家族』——ビルの谷間の「スイミー」たち
- #13 『天気の子』——愛にできるものはまだあるよ

【担当者からのメッセージ】

突如、世界を襲ったコロナ禍。アメリカの映画館がほとんど休館になってしまうという異常事態の中で、「最前線の映画」Vol.3をどうするかという打ち合わせの中で、真っ先に挙げたフレーズが「格差と貧困」でした。コロナ・ウイルスは人々の健康や生命を奪う一方で、このグローバル資本主義社会にはびこる問題点を浮き彫りにしたと考えたからです。

【お問い合わせ先】

集英社インターナショナル

電話 03-5211-2630 公式ホームページ <https://www.shueisha-int.co.jp>